

令和5年度第2回志摩市子ども・子育て会議議事録

日時：令和5年12月11日（火）

17：30～19：00

事務局：開会あいさつ

会 長：会長あいさつ

事務局：委員17人中15人出席

参加者過半数以上の出席を確認したため、会の成立を報告。

配付資料の確認

事務局：本日は大変お忙しいところご出席いただき、誠にありがとうございます。
定刻となりましたので、ただ今から令和5年度第2回志摩市子ども・子育て会議を開催いたします。

開催に先立ちまして、志摩市子ども・子育て会議の会長よりご挨拶を申し上げます。

会長：こんばんは。

子ども・子育て会議を始めさせていただくんですが、それに先立ちましてはというよりは、近況報告をさせていただきます。

私今日鼻声なんです。ずっと私、ブタ草とか、セイタカアワダチソウの花粉症が実は一番ひどくて、ずっと花粉症だと思い込んでいたんですが、いつも通っている病院に行ったら、花粉症ではなくて寒暖差アレルギーと言って、流行の最先端を行っているようです。

鼻が詰まっていて口呼吸をする、のどがやられるという悪循環に陥っているので、今日はちょっと美しい声が出ないかもしれませんが、大変申し訳ありません。

実は3日ぐらい前まで体調があまり優れず、今日はもしかしたら欠席するかと思ったんですが、体調がすぐれない理由は、冷静に考えたら今大学卒業論文の指導時期で、1日2時間ぐらいしか寝てないことに気づいて、出してくる文書に赤ペンを入れて、戻してます。そのうち開放されるので、もうちょっと頑張ろうかなと思っています。

ということで、鼻声で大変申し訳ないですが、お聞き苦しいところもあると思いますがよろしくをお願いします。

今日から、席をリニューアルしていただきまして、今まで私、後ろの事務局に意見を聞いていたんですが、なるべく皆様の方を向きやすい方向を考えてですね、このようにしていただきました。

今日の内容ですが特に、第3期志摩市子ども・子育て支援事業計画。その

土台といいますか、礎といいますか基本といいますか、そのアンケートについて主にご審議、ご意見いただきたいと思っています。

この計画は、私の思いがありましてできれば、市民の方から得られたデータをもとに計画が作られ、そしてそのうちの全部は難しいと思いますが、いくつかが実現していく。そうすると市民の方が自分がこういうふうアンケート出したことが反映していて、そして志摩市が良くなっているなどという実感を少しでも感じていただきたい。

ということで前回もお伝えしましたが、何とかアンケートの回収率をですね少しでも上げていきたいと思っていますので、そのあたりもまた皆様に、何かご意見、或いはこんな方法あるんじゃないのっていうところでありましたら教えてください。

少し長くなりましたが、これで開会の挨拶としたいと思います。

ありがとうございました。

事務局： ありがとうございました。

連絡事項といたしまして、本日は委員 17 名中 15 名の方にご出席をいただき、過半数に達していることをご報告いたします。

また、本日は、第 3 期志摩市子ども子育て支援事業計画の策定を委託しております、ぎょうせい東海支社から、高森様、矢野様、五家様の 3 名にお越しいただいております。

今回のアンケート調査票を作成するに当たって、ご協力していただいておりますので、本日の会議で、詳細やわからないことがあれば、ご説明をしていただく予定です。

さて、会議に入ります前に、お手元の配付資料の確認をさせていただきます。

まず①事項書、②資料 1、子ども・子育て支援法に基づく志摩市子ども・子育て支援事業計画の策定について、③資料 2 と④資料 3 が今回のアンケートの調査票となっております。チラシが 1 枚追加で机の上に置かせていただいております。

志摩市の子ども・子育て支援事業計画、緑色の冊子ですが、すでに配布をさせていただきますので、お持ちいただいておりますでしょうか。

もし資料の不足等がございましたら事務局の方へお申し出ください。

また本日は、議事録作成のため、ボイスレコーダーにて録音をさせていただきますので、ご了承ください。

それでは、事項書 3 の議事の方に入りたいと思います。

ここからは、会長に会議の進行をお願いしたいと思いますので、よろしく

お願いいたします。

会長：それでは進行は会長の会長の方でさせていただきます。

委員の皆様には、児童福祉関係の方、子育て支援のボランティアで活躍していただいている方、保護者の方など、様々な立場の方がご出席いただけますので、できる限り積極的にご発言いただきますよう、よろしくお願いいたします。

順番としては事務局から説明いただいて、そして委員の皆さんからご質問或いはご意見を伺えればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。それでは議事に入りたいと思います。

事項書に沿って進めさせていただきます。

まず、一つ目です。

第3期志摩市子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査アンケート案について。

それでは説明の方よろしくお願いいたします。

事務局：それでは説明をさせていただきます。

まず資料1「子ども・子育て支援法」に基づく「市町村子ども・子育て支援事業計画」策定をご覧ください。

本日議題とするアンケート調査は、これに基づいた第3期の志摩市子ども・子育て支援事業計画を作成しますということで根拠となるものをお示ししたものです。

1の、「子ども・子育て支援法に基づく基本指針」の2行目にありますように、「市町村は5年を一期とする子ども・子育て支援事業計画を定めるものとする」とされています。

ですので、志摩市の方も、こちらの計画に基づいて、令和7年度からの第3期の策定をしていきます。

2番の市町村子ども・子育て支援事業計画の記載事項というところ以降については、どのような内容で計画を策定していくのかということが記載されています。

内容は大きく分けて、保育所や幼稚園、認定こども園の施設の利用に関して、量の見込みや確保量を示したものと、資料1の3ページの3、地域子ども・子育て支援事業の提供体制についてお示したものに分かれております。

地域子ども・子育て支援事業は何かといいますと、①から⑬番までの事業

で、子育て支援センターや乳幼児全戸訪問事業、ファミリーサポートセンター事業などの地域の子育て支援の量の見込みや提供体制を示したものとなっております。

第3期の子ども・子育て支援事業計画も、この内容に沿って策定をしていきます。

以上が、簡単ですが資料1の説明となります。

会長：ありがとうございます。

今回の計画もそうですが、一期二期に関しては、まちまちで独自にやっているとよりは、これは実は子ども子育て支援機構というのがありまして、それに基づいて行っているというところでその根拠資料を示していただきました。

資料は事前に皆さんにわたっていると思いますが、3分程度時間を取りますので、見ていただいてご質問等ございましたらよろしくをお願いします。それでは、3分ほど経ちましたので、今見ていただいたものを根拠に策定していくということですが、この内容について何かご質問、確認しておくべきことはございますでしょうか。

それではこの策定の、基本にのっとなってこの後アンケート等を見ていただくということになります。

それでは続いて資料2の方です、就学前児童用アンケートの説明を事務局の方でよろしくをお願いします。

事務局：続きまして、アンケート調査票の資料2と資料3になります。

資料2の就学前児童用と資料3の小学生児童用に分かれています。

こちらの方アンケートの表紙を見ていただくと、5年前のアンケート調査から大きな変更点として、表紙に記載がありますように、アンケートの回答が今回からWebでもできるようになりました。

これにより、パソコンやスマホからでもご回答をいただけるようになります。

資料2の就学前児童用ですが、ページ数見ていただきますと18ページと、かなりボリュームが多いアンケートになっておりますが、これは先ほど資料1で触れました、保育所や幼稚園、認定こども園の施設の利用について、どれ位の需要があるのかに関連した。質問項目が、7ページ、問18までになります。

計画書の64ページからの教育保育体制の確保というところの見込み量の数値を出すために必要な項目となっております。

また、今回新たに追加された項目としまして、アンケートの4ページ、子どもの貧困対策の関係の項目を問13～問16に追加させていただいています。

問13の世帯の収入であったり、問14過去1年間に経済的な理由でできなかったことはありますかや、問15現在の暮らしの状況はどうかや、問16保護者の最終学歴等々ちょっと答えにくい質問ではあるのかなとは思いますが、志摩市の現状を把握するという形で、今回追加をさせていただいた項目となっております。

これらの項目は、現状を把握するというもありますが、他の項目と重ねて集計することで、見えてくることのあるのではないかなと考えております。

7ページ以降の問19からは、地域の子育て支援事業の利用状況についての項目となっております。

16ページ問33からは、志摩市の独自の項目ですけれども、子育て支援でこういったことが求められているのかを、聞くような項目となっております。

大変ボリュームの多いアンケートとなりますが、5年前のアンケート調査から質問や選択肢については、なるべくわかりやすい言葉に置き換えています。

もう少し、わかりやすい言葉に置き換えられるのかなというご意見がありましたらまた教えていただきたいなと思っております。

以上簡単になりますがアンケートの説明となります。

会長：ありがとうございました。

改めて確認しますが、表紙のところにIDパスワードを発行することになっていますが、その下に個人を特定するための番号ではありませんということですが、回答のためだけのIDパスワードということでもよろしいですか。

事務局：そうですね。

紙の調査票と、ウェブ回答での重複を防ぐという点でのIDとパスワードだけになり個人を特定するものではありません。

会長：ということで、そのところだけ確認をさせていただきました。

ちょっと量が多いので、少し時間を取ります。

特にですね先ほど根拠資料の1の3ページのところに地域、子ども・子育て支援事業の13項目あったと思うんですが、このあたりで、それぞれ子育てにかかわる機関から代表で来ていただいている方もいると思いますので、それぞれ自分に関係あるところを中心に見ていただいて、そして全体に見ていただくというところで、5分間時間をとりますので、お疲れのところ申しわけないですが、例えば、親の立場からいくとちょっとこれ、答えにくいよねとかもあるかもしれませんので、いろんな視点で見いただければと思います。

それでは、あちこち行くとわかりにくいですので、項目を前から順番にある程度塊でお聞きしたいと思います。

問の1から12まで。の間で何か、ここはこうした方がいいんじゃないとか、これはどういう意図で質問しているのかとかあれば、よろしくお願ひします。

委員：問5のところで配偶者またはパートナーという選択肢があります。次のページの問8のところでも、子育てをする上で気軽に相談できる人はいますか。また相談できる場所はありますかというところの選択肢も配偶者・パートナーになっています。

だけど、問9では母親、父親としか選択肢にないのは、どうしてなのかなと。

事務局：そうですね、今回最初の設問のところでは、特に婚姻関係にはかかわらず子育てをしているというところで配偶者またはパートナーという設問にはさせていただいたのですが、実際いわゆる子育てをしているのに、どちらが主になってやっているのか、もしくは一緒にやってるのかってところで一般的な聞き方として、問12については、パートナーとは書かず父親、母親ということにしています。どちらが子育ての主になってるのかなっていうのを聞くための項目としてこういう書き方をさせていただいている。

委員：答える側として考えると、例えば生計を一緒にしているパートナーもいるだろうし、

別の家もあるでしょうけれど。

例えば、問9なんかは、前の設問ではパートナと答えているのに、父親、母親だけの選択肢になっているので、答える側としては迷うのかなと思います。

事務局：これもいわゆる一般的な父母っていうところではあるんですけども。括弧してパートナーを含むという表記にするほうがいいですか。

会長：保護者と言っているので、父母にかかわらず祖父祖母も含まれてくる可能性も当然出てくるんですが、つまりこの質問で母親父親に絞っている意図が何かあるのでしょうか。あるいはパートナーも含めてデータを出した方がいいのか。

委員：父親母親だけが子育てをしているように感じるのですが、実際祖父母が見ていたりする。そうするとこの設問には、祖父母のことは盛り込まれなくなる。

坂井：先ほどご質問いただいた件に関しましては、設問に回答する対象者がぶれないように、事務局の方で精査させていただきたいと思います。

会長：ちなみに第2期の時と今回の質問の表記は同じですか。

事務局：そうですね。この質問については第2期もこのような形でさせていただいています。

会長：例えば、第2期と第3期のデータを経年比較するっていうことに意味がありますか。

事務局：多少やっぱりそういった連続したっていうところでは、同じような質問をして、比較をするっていうところも大事になってくるのかなとは考えています。

ただ家族状況というのは、多様化してきているのかなというところで、今回パートナーというところを問5のところでは追加をさせてもらったところではあるんですが。

ここは多分、もともとの国から示された様式っていうところがありますので今回その部分を踏襲しているところがあるので一旦整理してみたいと思います。

ありがとうございます。

会長：委員委員いかがでしょう。

またこの辺を整理整頓してということですが、皆さんいかがでしょうか。この4ページあたりぐらいまでの問12までで、これは例えば後で、何か気づいた場合は、こういうところはどうかという機会がありますか。

事務局：ここでそうですねある程度方向性が決められたらなと思っています

会長：ということでここで方向性をということなのでこれはいかがでしょうか。

問12までは、今のパートナーとか組み合わせの問題を整理するということがよろしいでしょうか。

では、問13からは、これを新たにですね、気持ちとして、新設したいというところですね。

では、問の14、15、16まで、この4本について何かご意見、質問、或いはこの設問の意図等ですね、より詳しくとかってというのがあれば、よろしくをお願いします。

問13年収どれぐらいかというところと、それから、世帯1年間の経済的に次のような傾向があったかどうか。それから現在の暮らしの状況、そして最終学歴になります。

遠慮なく意見を出してください。

委員：この問13の年収と問16の保護者の最終学歴は保育や見込み量の把握というところで、どんな関係があるのかなと思いました。

事務局：この世帯の年収というのは、実際現状はどうなのかっていうところをできれば把握したいというところと、この問16の学歴はこの学歴だけを聞くというよりは、学歴等他の例えば問14であったりとか、必要な今の状況というところを重ね合わせて集計した時に何か、経験がないことや、そういったところでの差みたいなのが出てくるのかどうかというところをまた把握ができたらなということで、一旦質問を入れさせていただきました。例えば、ご両親の学歴によって世帯の年収がどうなのかと、保育所の利用のニーズが結びついていくのかみたいところで、重ね合わせて何か集計をすることで、見えてくる姿っていうのがあるんじゃないかなというところに入れさせていただいた質問になる。

委員：志摩市のお子さんのほとんどが保育所を利用していると思うんですが、入れなかった人が、定員がいっぱいで入れなかったという理由はありますが、

収入が低いから、育所に入れなかったという例は、今までなかったんじゃないかと思うんです。

それとその最終学歴と収入の関係が、保育所とか小学校とか利用のニーズにどうつながるかがわかりません。

事務局：やってみないとわからないところがあるんですけども、他の項目と重ね合わせることで、何かこう志摩市の姿が見えてくるんじゃないのかなというところで入れさせていただいた項目になっています。

委員：日本の統計調査では、学歴が高い両親の子どもは、学校の成績が良いという結果が出ているんですね。それを志摩市も調べるといえるのでしょうか。

事務局：その辺ですとどういったところに、統計が出てくるかというのは志摩市ではこういった統計をしたことがないので、なかなか答えづらい質問ではあるかなとは思いますが。この機会に調べてみるのもいいのかなということで入れさせていただいています。

会長：さっきからの組み合わせで、クロス集計をしてということだと思うんですが、例えばこの13から16或いは他の項目をクロス集計したときに、具体的に計画にどういうふうに反映してくるか、どういうところを充実させるためにこの13から16の質問があるのでしょうか。

事務局：実際にこれらの質問から見てきた姿で、志摩市としてどういった支援に結びつけられていくのかというところを考えていく上でも、もしかしたら親の年収と塾とか習い事、また子どもの経験みたいなどころとの差があるのかなのか、そういったところで支援ができるのかってということでも、もしかしたら学習の支援がもう少し必要なのではないかと、もしくはどういった支援に結びつけていくといいのかなってという姿を見るためにもちょっと今回入れさせていただいたところではあります。

会長：この項目について他の委員の皆さんどうですか。

竹内：私もこの13から16のところの、問16の③その他のところのその他に関しては、例えばどういう方なのかっていう。説明があると。答えやすいのかなあと思いました。母親父親その他のところのその他がどんな人になる

のかなと、自分がち理解不足でわからなかったので、そこを教えていただけたらなと思います。

答えにくい質問ではあるなと個人的にも思いました。

事務局：確かにこのその他っていうところは先ほど委員委員もおっしゃられたようにパートナーであるとか、祖父母であるとか、母、父以外の保護者、子どもを育てているという方を、想定した部分ではありますので、先ほど竹内委員が言われたようにもしかしたら注釈は必要だったのかなとは思いますが。

会長：最近その言い方、その他っていうと何か、メインに対してのその他ってことなんですが、それ以外全部ということになるんですが。

今の表現もそうですし、このあたりのことは1回アンケートを取ってみてそこで出てきたデータを基にして、何か手だてが打てるところは考えてみようというスタンスでよろしいですかね。

当然多分これだけでは細かいところは出てこないんで、さっき山本委員がおっしゃってもらったようにもうすでにですね、全国のデータはある程度出てますので、それと照らし合わせて、志摩市の状況が実はこの平均値より低いとかですね、この部分が弱いとかってのが出てくるのかもしれない。

この問13と問16のセットだけじゃなかなか、何が入れるかは難しいと思うので、その辺をどういうふうなものとしてセットにして、それをどういうふうにかけるかということでも少し想定していただくということが必要かもしれません。

本当は、もうちょっと細かく聞いていかないと、データとしては取れないと思いますが、概要を知りたいということだということではいかがでしょうか。ここは結構志摩市の、今から聞いていこうというアンケートで機能になる部分だとは思いますが、おそらくこの子ども・子育て支援法等に基づいて考えてくるとこの項目はそれほど、必要な項目ではないんですが、ここは志摩市さんとして独自に聞きたいということだと思うので、ぜひとも皆さんでもう取るなら取るも一つだし、事務局としては聞いてみたいっていうところがあるので、今山本委員、委員委員のご指摘以外に何か、懸念されること、或いはこれ聞くことによってこんな可能性があるんじゃないかという視点があれば、教えていただきたいと思いますがいかがでしょうか。課或いは事務局、或いは今回アンケート作成に協力いただいているぎょうせいさんとお話をいただいて、どういった意図や関係があるのかももう少し明

確に示せるようにするということができればしょう。

事務局：実際この問 16 については最初の方で、保護者の働いてる状況というところも、結びつけることができるのかなっていうところに入れさしていただいたつもりではあるので今の状況をどうやったら把握できるのかというところで、追加したところではあります。

会長：今直接子育てされてる方に、どうやって聞かれたら答えやすいですかって言い方おかしいですけど、何かありますか。

P T A の方とか、この質問で答えようかっていう感じなのか、例えばこうやって聞かれると答えやすいとか、細かいこと言うと順番を変えるだけで、イメージが変わってくるんですが、或いは、1 個外すだけで変わるとか、1 個出すとあってよくあるんですが、私がもしその立場ならちょっと答えにくい部分があるなって思いはあるんですが、概略を知るには十分なのかなと思いますがいかがでしょうか。

1 回聞いてみましようかって言いたいところですが、なるべく慎重にと思いまして。

山本：この設問がすごく結びついて効果があってこれが明確に出てきた、というのであればいいですが

会長：この設定の意図ですよ。臨時

矢野：この質問は、いわゆる子どもの貧困について、ある程度把握できないかという意図でもって作っているものです。

例えば所得でいくと、一般的に貧困線っていうのは、年収 128 ぐらいだったと思うんですけども、そこから下が貧困線といいます。ただ市町村によってそれは若干違います。全国的に言えばそれが貧困線で、貧困線を下回っているという回答が出てきた場合に、その次の設問で必要な食料が買えないとか、或いは保育用品が買えないとか、というようなことで現状を把握をしていく、そうやって問題点を探る。

それから、そういう場合に貧困線を下回る場合の親の学歴はどうなのかとか、そういうふうなことを把握していこうということです。だから、今回のこの計画にこの設問が必ずいるというわけではありません。

ただ今まで、志摩市として、貧困状態っていうのを把握しているアンケートはありませんので、この機会に把握をしたいということが一番大きな目

的です。

本当にそれを把握して、実際の対策を打つというのであれば、このアンケートでは足りません。もっと親と子両方に聞いていかないといけないので、都道府県や、大きな規模の自治体のところは、ちょこちょこやられてるところはありますけれども、子どもの貧困対策計画というようなものを作るときにこういう設問を入れます。

ほんのわずかな部分でも、今回把握してみようというのが意図です。

それから先ほどの配偶者パートナーのところは、要は1人親家庭かどうかということを知りたいわけです。そのうえでひとり親家庭の場合に、保育のニーズはどうかということ把握するために、そういう設問が設けてあります。

それから母親父親、両方に必ず聞くようになっていきます。母親が先に聞いてますけど、母親に聞き父親に聞き、保育のニーズはどうかということ把握しようということです。これは国が示した項目と同じです。簡単に言うと今の設問のところをそういう意図で、お話し合いをして志摩市さんが入れられているということです。

会長：ありがとうございます。

やはり冒頭にもお伝えさせてもらったように、もともと国なりが指定する質問項目と、それと志摩市産さんが、独自にですね入れていくっていうところでここは一つ境目になるかなと思うんですが、母親父親というのは国の項目でというところで、もし、配慮が足りないとするとな国の方が配慮が足りないのか何かしらエビデンスをとったのかもしれませんが。

もう一つの志摩市さんの方は今説明いただいた通りで、やっぱりさっきの貧困線ってのがありますが、もしかすると全体的に大きく下回ってる可能性も当然出てきますし、その辺をとらえたいということですね。

それと最終学歴がどう結びつくかはわからないですが前の三つに関しては、現状も大ざっぱな判断ですが、できるかなということになります。

いかがでしょうか。今のお聞きいただいて。設定していく方向でよろしいですかね。

あとその他のところに関しては、少しまた相談いただいて、考えていただくということよろしいですかね。

では、これを設定させていただくということで。

次問 17 問 18 ですね。

このあたりで何かあれば、お子さんの平日の定期的な教育保育のですが、なにかございますか。

これも第2期と同じですか。

事務局：そうですね設問自体は同じで、言葉の意味はわかりやすい形で、就労予定があるとか求職活動というのを働く予定がある、仕事を探しているみたいな言葉でにして答えやすいような、言葉には変えさせていただいています。

基本的には問われてる内容は同じです。

会長：ということですが、この項目についてはよろしいでしょうか。

これはもう子ども子育て支援法のところでも基本的に聞かないといけないところですので、これでいきたいと思います。

では問19から地域ということですので、地域に関わって見える方も多く来ていますので、問19から問21まで、いかがでしょうか。

何かございますでしょうか。

これについても、第2期と同じですか。

事務局：そうですね。

言葉は簡単な子育て支援センターであるとか、言い換えはしてありますけれども、第2期と同じ質問となっております。

特に1から7子ども相談まであるんですが、これから何か漏れてるような、皆さんの関わってる中で、ありますか。大丈夫でしょうか。

それぞれご担当、或いは専門にされている分野でこれ足りてないようなこととかはないですか。

特に①から⑦問21ですね、サービスに関して。

よろしいでしょうか。

これもこの通りということで。

問22からこれらの保育所予定のことですがその問20から問23辺りはいかがでしょうか。

これも一緒に第2期から変わってないんですね。

特に利用したい理由のところは4つあってその他になってるんですが、何かこう共通でここに入れといた方がいいよっていうようなものはございませんでしょうか。

事前にここで言っとかないと、その他のところがやたら増えて集計がしにくいということがあるんですが皆さんどうでしょうか。

この4つプラスその他で。大体よろしいですかね。

利用した理由。仕事がある、休暇リフレッシュのため、平日にできない用事をまとめて済ませるため、家族・親族の介護や手伝いが必要なため。では問 24 からちょっと一気にいきますが、大体一つの塊でいくと問 24 から問 27。

ではいかがでしょうか。

27 までは、このままとして最後にもう一つ、28 から 31。

小学校就学後の放課後の過ごし方、現在のイメージをお答えください。

の 28 から 31 はいかがでしょう。

その他、公民館公園等ってあるんですが、大体この辺あたりでイメージわかりますかその他。よろしいですか。

はい、それでは最後、問 32 子育てと職場の両立支援制度。

先ほどの表現でいくと配偶者、という表現ですがそれでよろしかったでしょう。

そこも含めて考えてもらうということで。

では、ここの配偶者等のですね、要件についてはまた統一して考えていただくとしてよろしいですか。

就学前児童を今やっていますが、小学校の方も大体同じですのでこちらである程度進めたいと思っています。

では最後問 33 から最後のページですね。問 36 まで、問 36 は自由記述欄ですが 33 から 35。志摩市ついて。具体的に聞くというところですがよろしいですか。

何かあれば今のうちに言っていただいた方が、特にこれ志摩市独自の部分がありますので、よろしいですかね。

では長くなりましたが、就学前児童の方もある程度していくと、小学生児童用も、共通部分が多いですので、今聞いていただき、かなり細かく作りましたが、全体を通して何か印象であったりとか、何かございましたらおっしゃってください。

WEB 回答の作り方としては例えばは 1 と 2 選択したら、例えば次の設問へ進んだときはもう、選べなくなるのか、

システムとして 1 人を選んだ人は、2 つ先の問へという風になるのか。

事務局：該当するところへ飛んでいくような形になっています。

会長：それでは少し時間をかけましたが、資料の 2 の就学前児童用については、先ほどいくつかした修正を確認いただくということも含めて、ご了承いただいたということではよろしいでしょうか。

それでは続いて資料 3、小学生児童アンケートの説明をよろしく申し上げます。

事務局：こちらの方は小学生児童用ということで、14 ページと先ほどの就学前児童用よりは少なくなっていますので、こちらについては保育所等の施設の利用に関する項目がないためですがその代わりに、各放課後児童クラブの施設の利用というところで、少しお聞きする質問があります。

それ以外にも先ほど共通であったところなんですけども、子どもの貧困対策っていうところと、志摩市の子育て支援っていうところが共通の項目として、入れさせていただいています。

ボリュームとしては、こちらの方が少なくなっています。

就学前児童用と同じように重ねて集計をすることで、志摩市の姿で見えてくるものがあれば、今後の子育て支援にも生かせるところがあるのではないかとということで、質問は入れさせていただいています。

会長：こちらの方は小学校整備ということですので、先ほどの就学前の保育所幼稚園等のことは除いてあります。

特に先ほどおっしゃってもらったように、放課後児童クラブのところは 5.6.7 ページ特にこのところが大きく違うところということになります。それからその前ですね、先ほどあった世帯年収等のものは同じということになりますので、先ほどの 16 のその他についても先ほどと同じように、検討いただくということでよろしくお願いします。

3 分程度時間取りますので、目を通して頂いて、ここどうかなっていう話を隣どおしで話し合ってもらって全然構いませんので、1 人で抱えこまずに皆さんで話し合ってみてください。

3 分たちましたが、前で話してたのは何かというと、問の 16 の学歴まで聞いた時に、第 3 期にどうやって示して、何をするかっていうところで、例えば一つは、もうすでにやってると思うんですが、例えば学歴を聞いたときに、より収入の高い人が固まってくるんだったら例えば志摩市として財源があるかどうか知りませんが、大学行くとか、専門家の学校に行く就学支援金とかですね。そういうところに活かすとか、或いはそれで志摩市から出ていった人は一旦戻ってくるとかでもありますよね。

そこまで計画に反映できればいいかなという気はするんですが、ちょっと一つその辺が。落としどころかなっていうところを前で話しました。

では委員の皆様いかがでしょう、特にこの放課後児童クラブのところは、さっきのと違う新規のところにあると思うんですが、これはもう問いに限

らずに、何かあればということで、先ほどの母親父親の問題は精査していただくとしてそれ以外に、いかがでしょう。

特に放課後児童クラブって子どもたちにとってはすごく重要な場所であると思うんですが、この項目でよろしいでしょうか。

データさえ取ればいいってわけではないのでこのアンケートの結果を計画にどう反映さしていったら実現していくか。

志摩から伊勢とかに働きに出ている方が結構みえるっていうので、近いとはいえ往復で考えるとそここの時間がかかるので、その子どもがより楽しく通う場所として放課後児童クラブはとても有意義な場所だと思うので、この項目で子どもたちのニーズなりですね、これまで以上のよりよい子育て支援とするための基礎データとしてはどうでしょうか。これも前回と大きくは変わらないですか。

事務局：前回5年前はまだ志摩市には放課後児童クラブと一緒に児童館っていうのがありましたが、その制度については、5年前は一緒に聞いてたんですけども、今回5年経って志摩市は児童館からすべて放課後児童クラブに移行してますので今回はその部分の修正っていうのは加えてますけれども。聞いている内容についてはほぼ変更はありません。

会長：なぜそれをお聞きしたかっていうと、これこそやっぱり変化を、手立てをとってきたんだけど、やっぱりまだまだ足りないところをどういうふうに補っていくかということですので、同じ項目で聞くのが土台にまずあって、あと何かこうそういったことがあれば教えていただきたい。

事前に見させてもらって、大体これで測れるから大丈夫だとは思いますが、当然アンケートだけがすべてではないので、もしかするとこの先にですねインタビュー調査したりとか、子どもたちに直接聞くとかってあると思うんですが、基礎データとしてはこれでよろしいですかね。

ではそれ以外、放課後児童クラブ以外のところで何かお気づきのことがありましたらよろしくをお願いします。

山本：単純な間違いだと思いますが、1ページの問2 お子さんの学年についてお答えくださいというところで、1年生と4年生がいたらどうするんでしょうか。

事務局：そのことで後で説明をしようと思ってたんですけども、基本的にはこの調査、就学前の保護者の方で小学生の保護者の方っていうところで、ど

ちらか 1 人について答えていただく。小学生の保護者の方で例えば 2 年生と 4 年生がお子さんがいた場合に、同じ調査票がいくわけですので、どちらかを 1 人を抽出して、アンケートをお願いしようかなってというのは考えております。全数をアンケートの対象とするのではなくって重複は抜こうかなというところですので、表紙の宛名のお子さんについてお答えくださいみたいな形で調査の方はさせてもらおうかなと思っております。

会長：抽出するお子さんは、上のお子さんですか下のお子さんですか。

事務局：それはもう無作為にして重複だけを避けるような形で抽出をしてもらおうかなと今考えてます。

会長：ぎょうせいさん、今の抽出の方法で、母数がそんなに多くないと思うんですがどうでしょう。データの的には大丈夫そうでしょうか。

矢野：数がどれだけ集まるかということが大事なところではあります。だから回答率が高いってことが大切。それがやっぱり多くの意見を反映できるということですね。

ただ先ほどの質問のように 2 人同じ小学校にいらっしゃったら、おんなじアンケートが 2 通来たら、これは保護者の方の負担になりますので基本はしない。

だから、宛名のお子さんについてというふうに、初めから絞っていく。これはやむを得ないと思います。

会長：すると、これは任意の取り出しなのかある程度学年が平均化するようになり、調整するのか、事務局としては、抽出した結果低学年ばかりになるとかっということはないですか。

事務局：本当にもう無作為な手配としての抽出を考えております。

矢野：一般的には、今無作為はそれであり、一般的には末子の方、下の子の方を優先します。

現に、上の子より下の方の方が良い保育教育に手をかけているということに近いわけですから。末子と書くのもありますね。

会長：私も実はそれをちょっと思っていて、これから年数かけて 5 年間としたとき

に、6年生の5年間と。2年生の5年間っていうのは違うと思ってたので、どうなのかなと思うんですが、例えば小学校1年生の子が5年間かけて、小学校、中学校にっていう話なのか、長期計画を立てるっていう観点からいくと下の子のほうもありなのかなと思いました。

逆に言えば今回この、前回はそうですけどこの子育て支援って、保幼小を中心にかなり力を入れているので、そこに入れておくんだったら、さっき言ってもらったように、末子を選択する手も一つあると思ってるんですが、その辺はいかがですか。

それ5年計画なんですよ。

たまたま抽出した時に、バランスよかったんだけど回答が、返ってきたのが6年生ばかりだとか、当然確率の問題があるので、そうすると6年生の方になると中1、中2、中3、高1、高2っていうことになるので、ここに手だてを取りたいのか、下の子に手だてをとりたいのか、これ意外と実は統計を取る時の、ポイントになると私は思ってるんですが、いかがでしょうか。もう無作為抽出で帰ってきた時にかけるのか。

事務局：そうですね。5年前の抽出の方法はもう本当に全くの無作為っていうところで、対象の範囲の兄弟児だけ重複を避けるっていう形ではしました。

会長：志摩市さんでは、兄弟姉妹2人以上っていうのは結構多いんですか。ある程度いるんだとすると抽出の方法を考えておかないといけないかなと私は思います。さっきも言ってもらっているその末子っていうのも、よくこういう調査があるので、どうかなと思ったんですが。

矢野：場合によっては、末子だけ抽出するという方法もあります。

山本：最近はお子さんが2以上いるということも増えてきたと思います。保育所とか幼稚園。

それよりもう小学性、中学生とかは少ないような気がしますがいかがでしょうか。

会長：多分、いろんな抽出は幾らでもできると思うんですけど、その基礎データをどういうふうにするか5年計画で考えたときに、ぎょうせいさんとしてはどうですかあったと、小学校の下の方の子たちのデータがあった方が、こういう計画に反映させやすいのか、それともやっぱりこう、いろんな世代の人がいた方がいいのか。

矢野：ご指摘のように、下のお子さんのほうが計画期間にも入りますし、ニーズの状況がわかりますので、そちらの方がいいとは思いますが、ですから、抽出の時はすべて末子にしてしまうという方法もありますので、それはもう今後、事務局さんと検討して決めていければと思います。

会長：この辺の対象についてはもう事務局に一任ということでよろしいですかね。また志摩市さんの状況からデータ見ていただいてどこにとった方がより効果が高かったというところで、また報告をいただきますので、ちょっと検討いただけますか。
それ以外いかがでしょうか。
大変重要な視点が出てきましたが、よろしいですかね。

委員：本当に、大したことじゃないんですけども。
小学生児童用のアンケートのほうで、問14のところの、③の必要な保育用品を買えなかったというところを保育教育用品ぐらいに修正していただけたらと思います。

事務局：そうですね。ここは修正をしないといけないかなと思っていたので、学用品みたいな形で小学生バージョンの質問に修正したいと思います。

会長：そうすると8もですかね。

事務局：そうですね。ここは例えばPTA会費があるのかクラス会費があるのか、学級費みたいなものがあるのかどうなのかっていうところですけども、小学校バージョンで、聞く必要があるのかなとは思う。

会長：小学校の関係の方は、ここで言う滞納は小学校の給食費のことですか。
小学校は給食費を集めてますか。

事務局：今志摩市は給食費が無償になっているので、集めていません。

会長：あと何か集めているものはありましたか。

金光：教材費、PTA会費です。

会長：その辺のところの書き方を考えていただいて、学校の方にもこちらの方は確認をさせていただきたいと思います。

山本：本当にささいなことなんです、資料2と3、同じなんです、問15なんです、

全体育成、現在のグラフの状況をどのように感じていますかっていう質問で、書かれてるんですが、他の問とか満足度とか評価、それから子育てしやすいまちですかかっていう質問に対しては、5項目なんです、例えばこれでいくと、維持が大変苦しい、苦しい、普通、ゆとりがある、大変ゆとりがある、というふうな他の設問では、等5項目の答えがあるんですが、問15は意図して、1と2の間に苦しいという回答が入ってないのか。それと、ゆとりの反対の言葉が苦しいっていうのでいいのかと思いました。

前の問14とか問13を受けての、先生が言われたように、質問の場所によって答え方が、違ってくる。全体としてそうだと、相談する背景がないのか、或いは子育てを手伝ってくれる人がいないのか。なんだけど、この問15で、この暮らしの状況って言われるとやっぱりその問14、問13を受けて、経済的になっていような感覚になるので、取り組みもない質問なんです、ちょっと感じたので。

事務局：そうですね。ここは確かにおっしゃられるように、もう1個入れてここは5段階にするべきなのかなってというのは、課内でも出たところなので、そこは検討します。

あとゆとりがあるっていう反対、が苦しいでいいのかというところなんですけれども今の状況といえば実際苦しいのか厳しいのかってところで、どういう状況にあるのかというようなどころをお聞きするような設問かなと。

会長：大体5件法が多いかなと思いますが、普通と答えるのが実は難しかったりします。

単純に言えば、大変ゆとりがあるの反対側で全くゆとりがないっていうのが本来の反対になるんですが、このあたりは、多分作ってる時に苦しいですよ。的な部分があったと思います。これはやっぱり5件法でおいたほうが、つまり刻んだ方がわかりやすいと思います。5件法にすると、大変苦しい苦しいをまとめて、40何%ていう言い方をしますよね。で、例えば苦しい、どちらでもない、苦しくない。

だったらマルかバツかでいい。別にそんなに苦しいってわけでもないかゆとりもないよねだったら3件法も可能性もある。
これを5件法にすると、何か分析の時に効果はありますか。

矢野：あると思います。

会長：そうしたら5件法でいいですかね。

矢野：他も5件法であればそれでいいと思います。

事務局：おっしゃられるように、そちらの方で修正はしたいと思います。

会長：それで、報告書とか計画立てるときに例えば、全くゆとりがない、あまりゆとりがない、でゆとりがないのは全体の40%で、世帯が今苦しいことがよくわかるって文章になると思うので、あまり苦しいって入れるよりは、ゆとりがあるかないかの方がいいかなっていう気はちょっとします。

事務局：そちらの方で検討したいと思います。

細かいところも当然、こういうのは大事なところですので、いかがでしょうか。

時間も押してきましたので、私もちょっと進行があまり良くなって申し訳ないですが、よろしいでしょうか。

では、この二つ目小学生児童用のアンケートは、先ほどの調整、修正を含めて、事務局の方をお願いします。

最終版はまた送っていただけますか。

事務局：そうですね、修正しまして皆様のところにはまたお送りはさせてもらおうと思います。

会長：ではいろいろご議論いただきましたが、アンケートについての文言修正、項目の修正案等は先ほどあったものを含めて、私の方でまた確認をさせていただきますので、ご一任いただきまして、完成したものをきちっと皆さんに報告するという形をお願いします。

それでは、あと何かあります。

事務局：あと、もう一つ机の上に映像化させていただいたチラシですけれども。今回こういった形で、そのアンケートの回答率を上げることができるのかということで、もしできましたら例えば保育所、子育て支援センター幼稚園等々施設の方で、こういった形でパンフレット等、掲示していただけたらなとお願いをしたいと思ひまして、またアンケートを配しましたら、例えば利用者の方通ってる保護者の方に「このアンケートを送られてきたんやけどもう回答した。」とかこれこれっていう感じで、またお声がけ等々もご協力いただきたいと思ひまして、一旦アンケートチラシを作ってみました。今まで第2期までの計画を作った中で、皆様のお声を受けまして、町でもこういった形で子育て支援に反映してきたんだよっていうところも、ちょっとアピールポイントとして入れさせていただきましたので、こういった声でまだまだ志摩市の子育て支援をよくしていこうというような形で、できたらと考えております。

会長：ありがとうございます。

とにかくデータをなるべく多く集めるためには、市民の皆さんからのアンケート結果やご意見が反映しているということ、第2期ではこうやってきたんですというところを見せていく。

ただ第3期は、さらに充実させていきますよというところでいろんなところで、宣伝をしていきたいというふうなところでした。

今の件に関して何かご意見ご質問等ございますでしょうか。

これはもうここに見える皆さんにですね、是非とも協力いただいて、前回何%でしたか。

事務局：就学前児童が54.1%で小学生児童が43.6%でした。

会長：ということで、目標は60。超えたいいうところで、なぜこれを言ってるかというとですね、前回よりも、人口が減ってますので、今の60%回収してももしかすると前回の40%とかになってくるのかなと思ひます。私ざっと見てくるとそんな感じですので、何とかこれもし前回40%で今回40%とか前回50%で今年50%で回答数に代わりなかったよねっていうと多分分母の数が違うので、できれば60%ぐらいを目標にしたいと思ひますのでまたご協力よろしくお願ひします。

議事は以上ですがその他、他に何かあればお願ひします。

委員の皆さんから何かございますか。

では私の方からちょっと1点。

これも議事関係ないんですが、志摩の図書館と言って、西岡さんがされている会があるんですが、そこで11月にお招きいただきまして、講演をさせていただきますました。

その時の内容がですね、こういったループにまとめられていますので、またよかったらご一読ください。

これも当然志摩市の子育ての一環としてやっています。子どもたちが笑顔で本が読める或いはそれに触れられるですね、市を作っていければいいというのがコンセプトだということですので、私の方で話をさせていただきました。

また何か私の方で、協力できることがありましたら或いは皇学館のほかの教もいますので、SDGsとか何かありましたら、呼んでいただければと思います。

では、最後に事務局から何かありますか。

事務局：先ほどのアンケートに関するスケジュールなんですけれども、今日ご審議いただいたものを事務局で委員長と相談しまして、最終形を作成し、年明けにアンケートの方を発送させていただきたいなというふうに考えております。今のところ予定では、3連休開の15日前後に皆様のところへ届くように、送れたらというふうに考えておりまして、一旦1月末、土日を2回ぐらい挟んだスケジュールで1月末ぐらいまでのアンケートの回収、回答期間を設けまして、今後出てきたアンケートを今日来ていただきました、ぎょうせいさんの方に集計をしていただきまして、またその集計結果を今度の最終3月ぐらいにこういった会議でお示しができればいいなというふうに考えております。またその折には皆様のご出席をとご意見を賜りたいなと思います。

会長：ありがとうございます。

1月末にアンケートするので、その内容に関してはもう、会長及び事務局、ぎょうせいさんに一任いただくということによろしいですか。

事務局：今月中には、こういった形でというアンケートを皆様の方には送らせていただこうと思います。

会長：ではそれで確認をお願いします。

それでは、本日のいろいろなご意見につきまして事務局で検討し今後、事業に反映していきたいと考えております。

特にアンケートについて、大きな視点から或いは細かい文言のところもです。ね詳細に見ていただきましてありがとうございました。

そのほか何か気づいたことがありましたら、いつでも事務局宛にご指摘、ご確認等していただければと思います。

丁度7時になりまして開始後90分経ちました。

少し長い時間になりましたが、お付き合いいただきましてありがとうございました。

それでは本日の子ども・子育て会議はこれをもちまして閉会とさせていただきます。

どうもありがとうございました。